

じょく そう 褥瘡治療・処置 について

皮膚科部長 進藤 真久



褥瘡(じょくそう)とはいわゆる「床ずれ」のことです。体の一定部位が圧迫されたためにその場所へ血がいかなくなり、その部分が死んでしまった状態です。犬をもちいた基礎実験によりますと、200mmHgの圧迫が2時間加わると、犬の皮膚が死んでしまうというもの(Rogers, J et al Plast Reconstr Surg. 56: 419-422 1975)があり、褥瘡治療では少なくとも2時間おきに体の向きを変える必要があるといわれる根拠になっています。

以前、褥瘡は圧力と圧がかかっていた時間のみで発生すると考えられていました。しかし、今日では、圧力と圧がかかっていた時間に加え、皮膚の「ずれ」も重要な要素と考えられています。体の向きを換えるときは、皮膚を引っ張ってしまうと皮膚とその下の組織の間に「ずれ」ができてしまうので、ずれを起さないように、体の下の骨が出ている部分(仙骨、肩甲骨などの下)にしっかりと手をいれて体の向きをかえる必要があります。お尻に褥瘡ができないように、円座を使用されているのをみかけることもありますが、円座があたっている部分に圧力がかかって褥瘡ができてしまうため、円座の使用は推奨されていません。

褥瘡の治療には、一般的には塗り薬が使用されますが、皮膚や創が擦れるのがだめだろうと安易に「ラップ」をおくラップ療法というのが知られています。ラップ療法は安価なのはいいのですが、皮膚や創を保護すると同時に皮膚や褥瘡とラップの間に菌が増えることがよくあります。ラップ療法は簡便ですが、菌増殖をしているかどうかの判断が的確につく人が行うべきで、安易に行うべきではありません。

2012年に日本褥瘡学会から発表された「褥瘡予防・管理ガイドライン(第3版)」には、褥瘡の治療について十分な知識と経験をもった医師の責任のもとでおこなうべき治療とあります。菌が増えると褥瘡はどんどん悪くなります。紹介されてくる患者さんの褥瘡にラップが貼ってあることが時々ありますが、菌が増殖して

いると一目でわかるような臭いと汁(滲出液)がでてくるケースが多くあります。また、食品用ラップなどの医療材料として承認されていない材料の使用は使用者責任となるので注意が必要です。

創はよほど褥瘡治療に精通した方以外は、基本的にはよく洗って、塗り薬を使用するのが無難です。

塗り薬にも色々あります。基本的には傷が乾いていれば、少ししめらせたほうがよく、滲出液がおおければ、乾かす方向にもっていき、適度に湿らせた状態が良いと言われています。褥瘡の色がよければ、肉を盛る方向の薬剤、色が悪い場合には、色を良くする薬剤を使用します。場合によっては、色の悪い部分を溶かす薬剤を使用したりします。

以上、まずは褥瘡を作らないことが大切ですが、できてしまったら、適切な治療、処置で少なくとも悪化させないことが大切です。

謝辞：本稿の執筆にご協力いただきました、皮膚・排泄ケア認定看護師 今若育穂氏に深謝いたします。

